



モスクワ日本人学校

しらかば

第3号

モスクワ日本人学校
一人一人が輝く学校
笑顔あふれる学校

児童生徒数 128名

E-mail

school@mosnichi.com

(URL)

<http://www.mosnichi.com>

歴史と向き合う

(ポツダム会議が開催されたツェツィリエンホーフ宮殿)

目を宙の高みに据える

校長 石川 賢

中学部の修学旅行の1コマです。

「生徒が本当に熱心に質問するので、いつもの倍の説明をしました」。ガイドを務めてくださった川辺さんから、そんな「賛辞」をいただきました。周囲が舌を巻くほど意欲的に学ぶモス日の生徒たち。これまでの学びの積み重ねが「子どもの事実」として実を結んでいます。また、公共マナーについて、自分たちで反省し改善していくこうとする姿もありました。主体的に課題解決を取り組む力が育まれている証です。

新聞のコラムに載っていた東京都民銀行の頭取を務めた故・工藤昭四郎さんの言葉を思い出しました。

工藤さんは、新しく支店を設けるとき、例えば裏通りの「一歩下がった所」を選んだといっています。銀行の支店は午後3時にシャッターをおろし、残金照会などの仕事に入ります。

商店街がこれから活況を迎える時刻に、シャッターのおりたその部分だけ空気が冷えてしまいます。周囲に迷惑をかけるからないように一歩下がる、というのが理由です。そして、「目を宙の高みに据えられるかどうかで、自分の会社と周囲の空気を俯瞰（ふかん）できるかどうかで、経営者の人格は知れるのだろう」「その字のあるなしで『聡』明を語り継がれもし、『恥』を知れと叱られもする。経営者が胸に刻むべきは俯瞰の目『公』の一字だろう」と結んでいました。かみしめたい言葉です。

自分のことだけ考え、それでよしとする「恥知らず」にならないよう、公の心をもったモス日っ子であってほしいと思います。時々振り返り、目を宙の高みに据えて自分を俯瞰する力は、将来をなう子どもたちに欠かせない力だと思っています。